

平成24年度 第4回安城市男女共同参画審議会 会議録（概要）

日 時 : 平成24年11月12日（月）10:00～12:00

場 所 : 安城市役所 第10会議室

出席委員: (委員) 林委員、舟橋委員、旭委員、池端委員、稲垣委員、菊池委員、榊原ちさと委員、
榊原真由美委員、重田委員、柴田委員、丹羽委員（11名）
(事務局) 中根部長、兵藤課長、長谷係長、鈴木、池田、磯田

欠席委員: 糸委員

傍聴者 : なし

1 あいさつ

2 議題

- (1) 第3次安城市男女共同参画プラン（案）パブリックコメントの実施について
「第3次安城市男女共同参画プラン（素案）」に基づき説明

(質疑回答)

林会長:

どうもありがとうございました。大変たくさんの方の場所を、かいつまんでご説明いただきましたので、よくわかったような気がします。ここからは、委員の皆さまに、今のご説明を含めて、ご説明をいただかなかったところについてもご意見を頂戴したいと思います。どこからでも結構です。

池端委員:

前回、私のほうから意見させていただきました、市民憲章のリサイクルは、ありがとうございました。市民協働推進会議の際に、PTAや子ども会の役員の数で4分の1までいっているということで、非常に多く、今回表の中に「無回答」というのも入れていただき、若干「無回答」の方は、役員をやっておられない方が多いのではないかと、そういったぶれがあってはいけないということで、「無回答」の記載を入れていただき、本当にありがとうございます。

今日テレビで、ゴミ減量30%議論についてみておりましたら、テレビなどで見ると、こうした本で見るよりスッと入ってくるということがあります。これだけの量を読むのは、審議委員さんでも大変だったと思います。ビデオを見ると、頭にスッと入ってきます。例えば先ほどパブリックコメントとおっしゃられましたが、これはきちんとわかっていないと、コメントはできないので、そうすると、パブリックコメントを出す人も少ないと思います。例えば公民館とか、市民交流センターとかで、この中に出てくる表を出しておいて、それについてビデオで説明を流すとか、高価な役者を使うのではなく、市民協働課の方などの専門の方に説明を流していただいて、その前に、これについてどうですか、というアンケートを置いておくなどはどうでしょうか。何もわかっていなくて、パブリックコメントをするより、15分以内の短いビデオをつくっていた

だいて、この中に出てくる表などを出していただいて、説明されてからパブリックコメントを出した方が、普通の市民の方もそこに入り込んで行きやすいと思うのですが、いかがでしょうか。

林会長：

ありがとうございました。今まで、パブリックコメントについてのアイディアは、ここでは議論されたことも提案されたこともないと、私は記憶しておりますが、そういういうことを、皆さんの意見でやった方がいいということになれば、事務局としては、技術的にはやれるということでしょうか。

事務局：

ご提案いただきまして、ありがとうございます。今のことで言えば、例えばこの男女共同参画プランだけでなく、市民協働課として、市民参加の評価会議等を行ってございまして、その中で各委員の方からもいろいろな市の施策や、市民参加についての広報の仕方についてご意見をいただく場がありますので、単発でこれだけというのは、どうかと思いますので、ただ今の意見については、この段階で参画プランだけやるというのは、控えさせていただきたいと思います。ただ、参加推進として、一つのご提案として検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。技術的に可能かどうか言えば、可能だと思いますが、経費、どこへ設置するかなどの問題もありますので、なかなかハードルは高いのかなと思っております。

事務局：

ありがとうございます。では、追加でお願いします。

池端委員：

わたしはお金を使わないで、なるべくお願いしたいと思っています。例えば図書館の本を、一つの図書館にない場合に、別の図書館から持ってくるのに、最長で2日間で来ると聞いています。その図書館で、日曜までビデオを流し、月曜は休んで、火曜日には次の図書館につきます。そうすると、水曜日から5日間流せます。公民館で、5日間流して順次やれば、例えば8館やったとして、経費が1本分で済むため、8分の1で済むわけです。全部の図書館で1週間ずっと流すのではなく、公民館の中でも10時や13時、16時、19時と、3時間ごとに15分のものを流して、意見があれば、書いてくださいというようにやるといいと思います。それから、市民協働課の方が実際に顔を出して説明をするというのは、私にも抵抗があるので、例えば、説明するときに、ビデオの画面に資料を出しておいて、言葉だけで説明する、声の出演をするという、なるべくお金をかけない方法で、つくっていただきたいと思います。ビデオテープというのは200円以内で買えますし、経費は150円か200円で、人件費はかかりますが、それは置いておいて、そういった安い経費でやっていただきたいと思います。それについて、もう少しどうしたらいいのかというご意見を、これだけ活動していらっしゃる委員の方々がおられるので、パブリックコメントのやり方について、疑問に思っております。例えば男女共同参画のビデオを借りて見ようという方は、市民の方にはほとんどおられないと思います。でもこうやって流れていると、これを機会に見てみよう、と、一歩踏み出したかたちになるかなと思っております。そうしたきっかけになればなということがありまして、私は家に帰るとすぐにテレビをつけてしまう方なので、本でポツと置かれるより、ビデオがついていると、ちらっと見てしまうし、男女共同参画が少し一歩進むのではないかと思います。建設的な意見ではないかもしれませんが、それはどうかと思いました。追加でお願いします。

林会長：

ありがとうございました。少し分けたいと思います。先ほど事務局の方からご提示いただきました、この第3次安城市男女共同参画プランにキャッチフレーズを加えてパブリックコメントにするという段取りなので、この内容のことと、どうすればパブリックコメントをたくさんいただけるかという、手段の部分とを分けて考えたいと思います。先ず内容の点ですが、ご説明いただきましたが、いかがでしょうか、修正点や、補足した方がいい点がありましたら、今日が、こういうかたちでご意見をいただく最後のチャンスだと思いますのでお願いします。

舟橋副会長：

細かい、気付いた程度のことですが、43ページの重点項目がついているのがⅡ-1とⅡ-2で、Ⅱ-3にはつかないですね。

もう1か所は、93ページのセルフチェックシートで、人によって感じ方の違いかもしれませんが、男女共同参画ではいつも思うのですが、「家庭では」の3行目「女性が外出するときは、家族の食事の準備をしてから出かけるべきだと思う」という書き方があると思いますが、僕も実は、そう思います。しかし同時に言いたいのは、男性でもやるべきだという思いもあります。どちらもやるべきことに、あえて女性とついていると、これはどう答えたらいいのであろうか、ここにチェックをつけた時点で、僕は男女共同参画への意識が薄いのかと思ってしまいます。今日も出かけるときに、子どもの昼ごはん、夕ご飯を準備してから出てきているので、納得がいかない感があるので、もう少しその辺りの表現を工夫していただけると嬉しいなと思います。

旭委員：

93ページに関連して、この93ページのチェックシートは確かにいくつか答えにくい点がありますが、これは、出典はありますか。ありましたら、掲載してほしいですし、安城市が独自に作ったものであれば、その旨も書いてほしいと思います。

林会長：

確かにそうですね。実際にはどうなのですか。出典は前のシートなのでしょうか。

事務局：

今回策定に関わっていただいている、ジャパン総研さん独自のチェックシートということで、どこかの出典というわけではありません。修正することも、もちろん可能です。

林会長：

それは、このプランのために、新たにつくっていただいたということでしょうか。それともどこかで、いくつかこういうものを使っているということでしょうか。

JP 総研：

いくつかこういうものをつくらせていただいている、项目的には、分類が様々あるのですが、チェックリストというものは、こちらの内部にあり、その中からピックアップして整理して、新しくつくっているという状況です。

林会長：

原則として、これは安城市のオリジナルと考えてよろしいということですね。ありがとうございました。

JP 総研：

はい。

林会長:

とすると、修正していただくことも可能です。

事務局:

それでは、ご意見いただきました、「家庭では」の3つ目の項目を一度こちらで検討させていただいて、修正させていただきます。

林会長:

ちなみに旭委員は、どのあたりが気になられるのでしょうか。

旭委員:

基本的には同じ考え方なのですが、要するに男がやらないのは当然であろうということが、多くの質問に大前提としてあります。そこところが、ひっかかりました。設問自体が「当然男はやらない」という前提であり、だから食事が無い状態で家族を置いていくのではなく、作っていきよという、かなり固定した役割分担感に基づいてつくっていると思われました。

同じように、「地域では」の部分では、地域の行事に参加するのは、女性（妻、パートナー）の方がいいというのも、パートナーというのは、事実婚も入れているというように、勝手に解釈しましたが、そのへんまで安城市が行っているかということも、少し思いましたが、それも含めて、地域の行事には、夫も出るけどな、と思うとこれも答えにくいものの一つになります。

林会長:

そもそもこれを載せようという話になったのは、どこからでしたでしょうか。このセルフチェックがあったほうが、意識が自己判断しやすいということでしたでしょうか。

事務局:

細かい施策では、硬い話もありますので、最後に市民の皆さんにやっていただいて、気づきがあるのではないかとということで、入れさせていただいています。今回は、突然入れさせていただいているので、少しその辺ご検討いただきたいと思います。全ての項目で、男性がやらないということが前提になっているということについても、検討したいと思います。

旭委員:

検討していただけるのであれば、職場と地域のところの、最終項目「性的な話題もコミュニケーションの手段のひとつであり・・・」とありますが、こういうことは本当に普段あるのでしょうか。この言葉自体にかなりの違和感があるので、検討していただきたい部分であります。

事務局:

「職場では」と「地域では」の部分で、一番下の項目も検討させていただきます。全ての項目において、チェックシート自体を一度検討させていただいて、修正するかどうかを確認したいと思います。

事務局:

私も、チェックシートをやってみました。確におっしゃられるように、意図的に表現がしてあるという部分は感じ取っていたのですが、私自身は、男の立場で見たときに、まだ気づきが少ないので、これによって少し気づいてほしいという意味合いに捉えて、先ほどの、家族の食事のことも、確かにうちでもそういうことは言っていないませんが、一般的に、男の人も、女の人も答えやすい内容がいいという前提をいただけるのであれば、その方向でもう一度検討させていただく

ということになります。そうではなく、男に気づかせようという意図であるなら、先ほどの性についての違和感があるものは別にして、基本的にはこの線で行けたらと思うのですがいかがですか。

林会長：

同感する項目にチェックを入れましょうということなので、同感していなければ、チェックが入らないわけですね。私が気になったのは、地域の上から5で「地域の会合での席順は男性が上座、女性が下座に座る風潮があると思う」には、私はチェックを入れます。現実にあります。客観的事実としてそうだと思えるものと、自分の意識として違うのではないかというものが、混在しているのかなと思いますので、その辺りを少し精査していただけるだけで、うちの学生に家族援助論でやらせてみると面白いなと思います。細かいところまでよく見ると、これは何を聞かれているのであろうか、というところが若干ありますので、基本的にはこういうものがあっても面白いかなと思います。パブリックコメントで、こんなものはいらぬというふうに言われたら、わかりませんが。

事務局：

会長が言われた、本人がどう思うのか、社会的にどうなのかという問題が混在しているので、統一をしたいと思います。一度全体的に検討させていただきたいと思います。

舟橋副会長：

セルフチェックシートがあることは、すごくいいことだと思っています。やめてほしくて意見をしたわけではないことを、ご理解いただきたいと思います。

林会長：

チェックシートは、載せる方向で、ただ内容について、少し精査していただくということでもよろしいですか。あとはいかがでしょうか。

ゴールの目標については、なかなかややこしいということがあるので、載せられませんというご説明がありましたが、皆さまはよろしいですか。前の審議会では、最終ゴールはある程度必要ではないかというご意見だったように思うのですが。要するに庁舎内の意見調整のときに、最終ゴールまでは、なかなか難しいというご意見でしたよね。

事務局：

そうですね。

林会長：

そこは確認しておきたいと思います。やはり載せたいという話になると、大変なことになりますので、いかがでしょうか。

池端委員：

前回私が言ったので、見解だけ言っておきたいと思います。載せる、載せないは、事務方の事情があると思うので、そこまでは突っ込みませんが、載せないにしても、ゴールは持っていてほしいなと思います。

林会長：

ありがとうございました。それをどこに反映させるかは、なかなか難しいと思うのですが、ひよっとすると、キャッチフレーズなどは、そういうニュアンスになるのかなと思ったりもします。あとはどうでしょうか。

舟橋副会長：

私の記憶違いでしたら申し訳ないのですが、前回、重田委員がおっしゃられた最終ゴールの話は、特別数値目標の話ではなかったと思います。ビジョンの話であったと思います。今、最終ゴールは、数値目標を立てられないので、出せませんでしたということをおっしゃっていたと思うので、そこに齟齬は感じているので、数値目標でなくても、ストーリーの書き方でも、構図の書き方でもなんでもいいので、全くビジョンが出てこないと、どうしてこの数字があるのという議論になってしまうので、そこは何等かの形で、我々の目標とする姿というようなのは、どこかプランの中に、明記しておかなければいけないのかなと、感じました。

林会長：

ありがとうございます。池端委員、これに関してでしょうか。

池端委員：

私も今同じようなことを言おうと思っていたところでした。

林会長：

他の委員さんは、いかがでしょうか。今のようにやはり、プランではあるけれど、現実的な側面と、安城市としてこういう社会が近い未来に来るといいなというビジョンをどこかに入れ込められれば、それはとてもいいのではないかというご提案でした。どうでしょうか。そういう方向が難しいということであれば、本当に難しいのでしょうかから、再度どこかに入れ込むというかたちでご検討いただけたらと思います。

事務局：

我々は、数値目標ということにこだわってしまったのですが、全体のものとしては、32ページに、男女共同参画の目指すものというのは、男女共同参画の実現とっているので、この安城市バージョンで、言葉でもう少し入れられないか、というご提案だったのででしょうか。

林会長：

そういうことですね。

重田委員：

前は数値目標が出ていたので、それなら、今回は逆算して目標数値というのが、本来は存在するはずだということでの、質問でありました。本音でいうと、数値目標を細かく書き込まれていたもので、前回ではすでに達成している数値と同じものが、2件あったので、あれはすでに目標に達しているからプラスアルファがないのか。それとも現状維持を目標にするのか、という点であそこまで数字をつくるのであれば、そういう背景があった方がわかりやすいですね。数字が出来るのであれば、絶対になんらかのゴールがあつての目標なので、それが本来なら数値化されるべきであるという気がしております。

事務局：

個別のものでいきますと、この計画の年数の中で、どこまでできるのかということと、未来の最終的なものまで、内部的なことですが、そこまで出すのは難しいということで、さきほど担当の方から、説明をさせていただきました。全体としての目標で言えば、出せるかもしれませんが、個々の数値でいうと、ほとんどのものが難しいのかなと思います。今ある現状からみて、少しでも良くなるようなかたちで目標設定はされています。最終目標が全部このようなかたちになっているものばかりではないので、その結果で、先ほど担当者が言ったように、数値目標でもって

るのは難しいから、今回は省かせていただいたというお話をさせていただきました。おそらく、私どもは、男女共同参画社会ですから、全体で言えば、男も女も関係ないということができているのが普通の姿であるので、これは特にこの計画の場合は、わかりやすいと思ったので、今の結論に至って、先ほど報告させていただいたという経緯があります。もしも安城市版のところ、何か入れるとすれば、32ページのところで入れるというのも、なんとなく他と違うような、安城市独自のものをらせるかというものも難しいかもしれません。ですから、私たちとしては、男女共同参画社会の実現というのが、最終目標であるから、この部分はこの計画については、わかっていることであるので、できたら省かせていただけたらなと思っているわけです。

重田委員：

言われていることは、よくわかるので否定はしませんが、ただ個別項目について、現状よりちょっとでも良くした目標と、そうでないものがあるのですが、でしたら、項目ごとにこれは最終目標であるという、例えば保育所の数などは、子どもの数当たり何件できる、などの逆算ができる目標もあれば、現状はこうなので、少しでも将来良くしておきたいという意味での、提示しにくい目標が二種類あります。ここで公表するかどうかは別として、この項目は目標があります、この項目は現状維持プラスαというような仕分けがあってもいいのではないかと思います。一部、載せにくい目標があるのはわかります。そのため、その辺は、逆に全部公表しませんというスタイルでなくてもいいのではないかと、話を聞いていて思いました。

林会長：

他の委員さんは、いかがですか。本質的なことだと思います。ビジョンで載せていくのか、期限付きのプランの中でのゴールとするのか、プロセスの中での一つのゴールと考えるのか、プロセス全体のビジョンとは何なのか、と自分の中でもごちゃごちゃしている部分でもあります。いかがですか。最後の67ページから成果目標として、全部を数字でまとめていただいています。これを見ますと、本当に微増だったり、微減だったり、現状維持のところもあります。最初のこのプランの位置づけと、このプランが目指すビジョンというのを、併せて最初の挨拶のところに入れ込んでみるとか、細かい数値目標については、3次プランの目標値ですから、3次プランが完結する29年度の年度末にはこうなっていることを目指します、というのがプランの性格だと思うので、そこについて、最終目標に至ったら進歩はないのか、ということになるかもわからないなどと非常に複雑な思いでいます。特に、67ページの最初、『啓発の促進』というのは、やはり、男性も女性も100か0だと思います。だけど、3次プランが終わる、あと5年間では、この数値を記載せざるを得ない、という現状もよくわかります。最終は、私はゴールというよりはビジョンではないかなと思うので、ビジョンについて、もう少し細かくかけるものについては、前ふりの辺りで触れて、成果目標はやはり、プランの成果目標なので、目指すビジョンについては、個々の目標数値ではなくて、別のところに書くということにさせていただくということで、よろしいでしょうか。その辺りで調整させていただくということで、事務局もよろしいでしょうか。

事務局：

言われるように、本来職場や家庭での男女共同の意識だとかは、最終目標は100%を考えるものであるし、DVの啓発回数についても、DVが行われなくなれば、啓発する必要もなくなるので、目指すビジョンというのは、そういったかたちで別途記載させていただいて、今後5年間

の計画の目標とさせていただきたいと思います。

林会長：

ありがとうございました。では、他のところでありましたらお願いします。

丹羽委員：

先ほどのことは、32ページのところに、安城市の言葉で入れていただければ、いいと思うのですが、それに合わせて、3次プランの目標値というものが、その辺りは市として、どういうふうに目標値を決められたか、ということが、目指す姿になるのではないかと思います。難しいところは、やらずに、できるところだけ載せているのか、根拠というのはやはり難しいことだと思うのですが、どのように3次プランの目標値を決めていかれたかというのが、それぞれの項目で、きちんと説明がいただけるような内容であれば、目指す姿になるのではないかと思います。

事務局：

この目標値の根拠になるものは、何なのかということですが、どういう根拠でこの数値が出されたのか、説明があるのではないかとご指摘でよろしいでしょうか。

丹羽委員：

いるというか、直接書く必要はないですが、それぞれの担当課でこういうことですよということが、出てくればいいと思います。例えば69ページ「女性が会長を務めている老人クラブの数」などは、どういう意味があるのでしょうか、とか非常に単純かもしれませんが、それぞれの項目についてどのように考えて、市としても市民に対して働き掛けて行こうというお考えがはっきりしていれば、いいと思います。

林会長：

それはどこかで書けそうですか。

事務局：

それぞれ担当課で、指標を設定しておりまして、どういう意図でというのも、担当課ごとにあると思うので、そちらについて、各担当課で明確にしておくということが重要である、ということでもよろしいでしょうか。

丹羽委員：

例えば特定保育園がもう増やさなくてもいいのだという、参画を助ける環境の整備で、児童クラブ数をあと三つ増やしたら、もう目指す姿である、と理解すればいいのでしょうか。

菊池委員：

このパブリックコメントを、どういうかたちで市民の人に知らせるのでしょうか。先ほど池端委員がおっしゃられた、ビデオ等で流して、少しでも関心を持ってもらうという方法をとるのか、今まで聞いた中で、あまり挙がってこないという話を聞くものですから、もっといい方法があればなと思ったり、さんかく21・安城という団体にこういうものを見せて、そういう人からの意見を聞いたりということも、一つの方法かなと思ったもので、何かいい方法があればと思いました。

事務局：

それでは、もしビジョンについてももう少し書ける部分があれば、書くということと、29年度のところで、これだけの背景があるということ、一個一個ではないですが、もし説明がいただける部分がありましたら、お願いしたいです。全体でも、例えばアンケートの結果からこう

だったとか、何年間の推移でこうだということになると思います。

柴田委員：

大変不勉強で申し訳ないですが、これが3次プランということは、2次も1次もあったわけですね。そこでキャッチフレーズというものがあったと思うのですが、キャッチフレーズというのは、凝縮しているものですので、その変遷を、1次はこうでした、何かクリアしたので2次はこうでした、クリアしたので3次がきていますというような、1ページを入れることで、総括して、課題になっているゴールへの道筋へのステップアップがわかるので、もし、まとめて出せるのであればいいと思いました。

林会長：

ありがとうございました。そうしましたら、方法論が先の方がいいでしょうか、キャッチフレーズにしましょうか。

事務局：

それでは、キャッチフレーズを別紙でご確認いただいて、それから意見をいただきたいと思います。

林会長：

いかがでしょうか、これを見ていただいて、なかなかどれもよく書かれていますので。1次は「そこに希望があるように」、2次が「みんなが主役 ともに輝く未来を」、第3次はこれをいよいよ実行に移していこうという感じがあって、9番が、「つちかった力で 次は行動へ」ということなのかなと思います。ここから選ぶということではないので、ここにもう一ひねりしていただいても結構なので、いかがでしょうか。3次らしさが出るといいですよ。

柴田委員：

1次、2次で蓄えていて、3次で行動の時期ではないかと思うので、9番がいいのではないかと思います。

池端委員：

このキャッチフレーズだけを見たときに、9番は何の行動を意味しているのかと思います。

柴田委員：

そこに一言加えるのはいかがでしょうか。

池端委員：

このキャッチフレーズを見たときに、男女共同参画の3次プランということが、どういうことをしたいのかがよくわからないと思います。一つ言えるのは、五七調になっている方が、調子が上がってくるような気がします。そうすると、消去法で決められます。聞こえがいいとか、調子がいいとか、現代風の言葉を使ってあった方が、若い方にも受けがいいとか、あると思います。

例えば俳句でも「風が吹いている」などいきもののがかりがやっていましたが、このような表現でやったほうが、若者にはうけると思います。オリンピックでやっていましたが、例えばTHE BOOMで「風になりたい」とか実際には風になれるのかということ、なれない。そういうような、心に残るようなキャッチフレーズがいいのではないのでしょうか。なおかつ、キャッチフレーズを見ただけで、だいたいどういうことをしたいかわかるようなものの方がいいと思います。「みんな吹かそう！協働の風（指針）」、こういう協働をやりたいのだという、そうしたキャッチフレーズではなくてはいけないかなと思います。

林会長：

その通りですね。第2次のキャッチフレーズを決めたときはどうやって決めたのですか。ずいぶん古い話ですが。

事務局：

皆さんから募集をして、おそらく審議会の中で決定してもらったのだと思います。ですから、ホップ・ステップ・ジャンプという意気込みで、始めからつくっていたわけではないと思います。

林会長：

キーワードを少しいただいて、キャッチフレーズの最終決定は次でも構わないので、そしてこの中でこういうのがいいのではないかと、というご意見もいただいて、次の審議会は2月ですので、先にパブリックコメントを出していただいて、こちらでキャッチフレーズの最終を決めるという段取りでもよろしいですか。

事務局：

はい。

林会長：

今日決めなければいけないということでもなさそうなので、キーワードをいくつか皆さんからいただければ、次はおそらくまとまりやすくなるのではないかと思うのですが。

今、風という言葉がでましたけれど。

榑原真委員：

やはり五七調で語呂がいいのはNo.1だと思います。そう考えると「みんなが主役」というのも捨てがたいなと思いますし、No.11の「共に活かせる」というのも、ちょっと前を向いて、活かしていくという考えると「みんなが主役 共に活かせる幸せ^{プラン}社会」というのは、語呂はいいかなと思います。「輝く未来を」と未来に向けて、もう少し前に進んで、だけどゴールではないという気が私はします。

舟橋副会長：

一つ確認したいのですが、今会長とのやり取りで、ふと気になったのですが。このキャッチフレーズを決めるのは、パブリックコメントをもらった後という認識でもよろしいのでしょうか。

パブリックコメントに出すプラン案の中に、キャッチフレーズを載せずに出すというのは可能なのか、まず確認したいのですが。要は、キャッチフレーズのところを「 」として出してもいいのですか。もしそれでいいのであれば、逆にパブリックコメントのときに、市民からキャッチフレーズをいただければいいと思います。キャッチフレーズをもらうということが、一つのこのプランの宣伝にもなるし、市民のそれに対する参画意識の向上につながるので、後でいいのであれば市民からいただく、もしくは市民のものがそのままなるといって、誤解を招くので、キャッチコピーに盛り込みたいキーワードを募集しますというかたちにするのも一つの手法だと思います。

事務局：

今言われたのは、市民からいただいたものを最後の審議会の中で皆さんに議論していただいて決める、ということですか。

舟橋副会長：

そういうプロセスも、ありなのではないかなと思います。32ページのところに、「審議会委員の方のご意見などをもとに決定します」と書いてあるので、この文章をごまかすことはできないので、この部分に、「このパブリックコメントをいただくプロセスを含めて、市民の声をもとに、審議会委員で検討し、決定します」と書き換えて出してしまう、というのも一つの手なのではないかなと思います。

事務局：

出てこなかったときのことも、考えなければいけないと思います。

舟橋副会長：

「市民の方のものから選びます」とすると、出てこなかったときに大事になるので、「声を基に」というふうに入れて、ある程度市民の方にキーワードをいただくのも、一つの手だと思います。

事務局：

ただ今のご意見については、非常に共感する部分があります。キャッチフレーズということで、委員の方からもご意見がありましたように、先ずぱっと耳に入りやすい、そして心に留めておいて、こういうことを聞いたから、男女参画に気をつけなければ、というようなかたちがありますので、まず耳に聞きやすい、語呂がいいというのは、キャッチフレーズの必須条件だと思います。それから、この言葉の中で、「目指す姿」を書くのか、第3次プランの特徴として書くのかによって、違ってきてしまうと思います。

第3次プランの、第1次、第2次との一番の違いというのは、DVの関係が入ってきているということです。第3次プランの特徴で、ということであれば、DV関係のことが、ある程度触れることになるかだと思います。「目指すべき姿」でいくのか、「第3次の特徴」でいくのかによって全く変わってくるのかなと思います。手法としては、市民の方に問いかけるというのは、一つのPRになるので、ご了解いただければと思います。

林会長：

ありがとうございました。私も第2次のプランの基本的な考え方を、もう一度読み返して、そしてこの第3次の基本理念と、最終目標「目指す姿」というものをあわせて読んでおりました。まずは、平等の未来像みたいなものがあり、実現するには、参画することが大事であるという考えがあり、参画するだけでなく、実行に移す、アクションをおこそうというのが、第3次の一つのステップアップのところかな、ということ自分を思いました。なので、市民の方のセンスでキャッチフレーズになるようなキーワードを求めますということでパブリックコメントに出していただいて、基本的には語呂がいいとか、耳に心地良く届いてくるとか、さらに何を指したプランなのかがよくわかるようにしたものに、ここで責任を負って決めるというスタンスはあります。キーワードとしては、市民の方にいくつかだしていただくという方向で、パブリックコメントに出すということに、させていただいてよろしいでしょうか。そうすると、いかにたくさんの方に、これを読んでいただいて、ご意見をいただくということになりますが、先ほど一つ出てきましたのが、ビデオをつくって流したらどうなのかというご意見がありました。予算という話もありましたが、私が危惧するのは、非常に細かいところに、実際にアクションに移すには、何が必要であるとか、この理念はこうですと、丁寧にうたっていますので、そのところが、丁寧に伝わりかつ短時間で伝わる手法は何かあるのであろうかというのは、自分の中でもよくわからないままではあるわけですが、何かこういうのがいいというのはないでしょうか。

まず事務局の方で考えておられる、最初の実務的な手法についてご説明していただいた後で、こういうのもあるのでは、というふうに意見を申し上げた方がよろしいでしょうか。具体的にはいかがでしょうか。

事務局：

今検討しておりますのは、12月15日の広報に掲載し、1月4日から2月2日の間で、意見を募集します。閲覧については、市民協働課と、市政情報コーナー、市民交流センター、文化センター、各地区の公民館、青少年の家、中央図書館、社会福祉協議会でできるようにします。また、安城市の公式ウェブサイトからも確認ができるようになっています。

林会長：

ということだそうです。基本、紙ベースとネットで見るということですね。後ろの方の資料的な部分も、全部出すということですよ。

事務局：

今回、資料に載せているものは、全て掲載します。

榊原委員：

私の周りでは、男女共同参画ということを知っている人がとても少ないです。今日も、この会議に出ると言う「何をするのか」とか聞かれ、普段会社で働いている人にとっては本当に媒体が少なく、会社から情報をもらえればわかりますが、一般の公民館や市役所に掲示してあっても見に行く機会がないし、知るすべがないという話をしていました。先ほどの、キャッチフレーズを考えるとということも、一般市民の方にそういうことを提示するというは、知るきっかけの一つになると思います。まず、私の中では、皆さんにそういうことをしていただくきっかけを広げることが大切かな、ということをととても感じています。

重田委員：

今、安城市のウェブサイトを見させていただいて、男女共同参画のページに至るまでに相当かかったので、パブリックコメント募集中くらいは、トップページに載せていただいた方がいいかと思います。最初の池端委員の話でいけば、「パブリックコメント募集中」をクリックしていただくと、動画が出てくるようにするなどすれば、わざわざビデオにしなくても幅広く安くできるのかなという思いはあります。

林会長：

そのサイトの中に、意見を書き込むという場所をつくるのでしょうか。

事務局：

ウェブサイト上で意見を募集するということは伝えますが、意見の提出方法としては、持参か、FAXか、郵送か、Eメールでということをお願いする予定です。ウェブサイト上の新着状況に載せるといい、というご意見をいただきましたので、設定をさせていただきたいと思います。今、辿りつきにくいとのことですので、修正したと思います。

林会長：

ウェブはそういうふうにする。先ほどいろいろなところに置きますと、おっしゃられましたが、先ほどの榊原委員の発言で、実際になかなか見るチャンスがないです。よほど意識的な方は見るかもしれませんが。

榊原委員：

そもそも知らなかったり、例えば中学生くらいの子どもは、学校で勉強しているかもしれませんが、私くらいの世代になるとその言葉は大人になってから聞きましたし、私も委員になってから学ばせてもらっています。普通の、意識を持たない方にとっては、本当に素通りしてしまいます。

事務局:

今おっしゃっていただいているのは、大変貴重な意見だと思います。今ここで、委員になっていただいている皆さまは、いろんなところから出ている委員の方ですので、出来れば身近なところから、PRしていただけるというのもありがたいことかなと思います。確かに、市の方が、広報などで一面に出せばいいのですが、市の情報がたくさんあるので、あれもこれもということでわかりにくくなっています。出来る限り、今やれる方向の中で検討し、やれる範囲でやらせていただきたいです。身近なところで、是非PRをしていただけるとありがたいかと思います。まずは身内の家族とかお子さんのところから、お友達が見えたらお友達のところで話をいただけると、むしろそういうところの方が良く伝わるということをおもっていますので、是非、お願いしていききたいと思います。

池端委員:

ある職場で「パブリックコメントという言葉をご説明できますか。」と尋ねたら、「わかりません。」と回答されました。ここにご出席の委員の方は、おそらくパブリックコメントについては正確に答えられると思うのですが。岡崎市の広報を見たときに、「何かご意見、お困りのことはありますか」とパブリックコメントのことをわかりやすい言葉でお願いする、ということがありますが、安城市の広報を見ると、パブリックコメントと書いてあります。その辺は、少し丁寧に書いていただき、パブリックコメントという言葉自体の意味がよくわからないのが一般なので、そういうところから、一歩踏み出してみるのも、一つの手かなと思います。

事務局:

パブリックコメントという言葉自体、お役所言葉ではないですが、広い意味ではそうなるかもしれません。こういう中で使われている言葉の中でも、DVと言ってもわからないので、どこかに解説を入れてもらうようお願いさせていただきました。私もお役所言葉でいろいろつくっている部分は多々ありまして、市民に周知していくためには易しい言葉が必要です。市としてもそういうわかりやすい言葉について検討はしていますが、つついとお役所言葉を使ってしまうということがあります。逆に言うと、こういうのが一つの言葉になっていて、他の言葉で置き換えられるものがないという技術的な部分ありまして、なかなか難しいところですが、先ほど池端委員の方からご提案いただいた、媒体として映像を使うなど、そういったことも含めて、広い意味での周知方法、使う言葉も含めてすぐにここでというわけにはいきませんが、そういったことを十分に検討したいと思います。池端委員も入っている、市民参加の評価会でも、検討していかねばならないなど、おもっていますので、そういう方向で考えて行きたいと思います。

旭委員:

先ほど菊池委員の方から名前が挙がったので、お話させていただきます。

さんかく21・安城としては、1次プランのときも、2次プランのときも、会員に働きかけをしています。特に1次プランの時は、組織の中で何か動いたのではないかとと思われるほど市役所の中が少しざわめいたのですが、実際に意見を出しました。他のパブリックコメントについて

も、毎月の定例会で必ず「今このパブリックコメントを募集中です」という言葉が出ます。このアンケートについても、10月に発行した情報誌で、一部分内容紹介をしておりますので、たぶん今回もこれを言ったら、全文を読んでみようと思う会員は、何人かはいると思います。ただ、参画フリークみたいな人だけが意見を言っても仕方がないので、パブリックコメントはそういうものではないと思っております。そもそも1次プランができたときに、プランをお飾りにしないためにというのが私どもの大きな目標でしたので、その部分で、なかなか21団体が増えて行かないのが、とても私も心苦しいところではあるのですが、努力はしていけると思っています。ただそれは、非常に関心の強い人から寄せられる意見ということで、偏りになるという危険があると思っております。

林会長:

予定時間を大分超過してしまって、大変恐縮に感じています。大事なところなので、もう少しご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

舟橋副会長:

パブリックコメントの期間を確認したいのですが。

事務局:

1月4日から2月2日です。

舟橋副会長:

それでしたら、私どもの施設からのご提案で、「ぼらりん」に載せさせていただきたいと思えます。ただ、あまり堅苦しい紹介文は嫌ですので、そのへんはご配慮いただきたいです。「ぼらりん」は、JR安城駅と名鉄新安城駅とあんくるバス全線に置いてありますので、少しは周知できるのかと思います。

もう一つ個人的に提案ですが、パブリックコメントの条例などにどれくらい抵触するかわかりませんが、基本的にキャッチコピーなどキャッチキーワードを求めるということですので、このプランのキャッチコピー募集みたいなものを、表に出していった方が皆さん食いつきやすいのではないかと思います。当然、理解するためには、本来はちゃんとこれを読まなければならないので概要版も用意されると思いますが、簡単にスマートフォンでダウンロードして読めるようにしておけば、キーワードを書くことができるコーナーとその下にもっと大きくパブリックコメント的なこと、これも先ほど池端委員がおっしゃられましたが、「パブリックコメントください」というのではなく、あくまでこの案について具体的なご意見のある方はいただけませんか、という書き方で、手順としては、パブリックコメントとして採用されたい方は、きちんと住所、氏名、年齢、電話番号を書いてくださいというような回収用紙の工夫もしていただくと面白いかと思います。そういうかたちであれば、うちもその紙を同じルートで撒くときに、折り込みにしたいと思います。その場で思いついて、スマートフォンで書くほどの人がいるかはわかりませんが、今までよりは、幅広い認知はできるのではないかと思います。

林会長:

他の方はいかがでしょうか。今の副会長さんのご意見は、ひょっとすると可能な部分と、少し神経を使わないと大変かな、という部分を含めながらご提案されていると思いますが。

ヒアリング調査をしてせっかく調査にご協力いただきましたので、こんなふうにとまりましたのでまたご意見くださいとか、キャッチフレーズのキーワードをお聞かせくださいということ

でご協力いただいたところへお返ししつつ、ご意見もいただくというのは、いかがでしょうか。聞かれるだけ聞かれてあれはどうなったのかな、と思う方もおられると思いますので。パブリックコメントという言葉は使わないで、私たちがいただきたい情報がいただける方法がもしあれば、ということも思ったりします。何か事務局からありますか。

事務局:

先生がおっしゃられた意味を間違っって解釈しているかもしれませんが、おそらくわかりやすい表現ではするのですが、一方、「パブリックコメント」である程度周知されている部分もあるものですから、出すとなると併記をするか、パブリックコメントを頭に出すのか、先ほど言われた「こういった計画に」ということでのいうのか、最後にパブリックコメントだと入れるのか、それはなんとも言えませんが、併記するかたちがいいと思っております。一方こうした計画に対して、というわかりやすい言い方をすると、パブリックコメントはやっているのか、と思う方もおられると思いますので、それを併せたような言い方で検討したいと思っております。

林会長:

そうですね、ここから先は、事務局の方の専門的な手法があるかと思っておりますので、お任せしたいなと思っております。私たちの気持ちとしては、どなたにもわかりやすいようにということと、パブリックコメントの本質を外さない、わかりやすさと言いましようか、なかなか難しいのですが、そこが大事なかなと思っております。あとは、いただいたコメントに対して、誠実にお答えしていくわけですか。

事務局:

実際には全員の方にお答えを返しているわけではなく、主な意見をまとめて発表させていただきます。

林会長:

個々にはお返ししないとは思いますが、全体としては、こちらのスタンスをお返しするということもあると思っております。それでは、そのようなことでよろしいでしょうか。内容は、基本的にこのようなかたちでいいということと、キャッチフレーズの方法については、それぞれのお立場で周知していただき、ご意見もいただくということと、もし採用していただけるならヒアリングに協力してくださった方々にも一旦これをご提示して、ご意見をいただくというようなことと、多方面に渡って紙媒体でもやっていただくということでもよろしいでしょうか。

それでは今日の議題「パブリックコメントの実施について」ということでの審議は、終わらせていただきたいと思っております。ここから先は、事務局へお返ししたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

事務局:

多くのご意見をいただきまして、ありがとうございます。

報告の方法については、少しこの審議会では超える部分があったかと思えました。私どもも市民参加と推進というのを所管しておりますので、そういう中で、当然より良い周知の方法を検討しなければいけない立場ですので、大変参考になる意見をいただきありがとうございます。

それでは、最後に事務局より、次第3「その他」としてご説明させていただきたいと思っております。

3 その他

事務局:

今後のスケジュールについてお伝えします。

本日の委員の皆さんのご意見をいただきまして、こちらで検討させていただきます。内部の作業部会でもプランを検討しまして、完成させていきます。今後見直しがありましたら修正をさせていただきます、パブリックコメントの前に一度修正後のパブリックコメント案ということで委員の皆さまにお送りさせていただきますので、ご確認いただけたらと思います。

第5回の審議会については、2月中旬を予定しております。その時には、パブリックコメントから出てきました意見についてご報告させていただきますので、ご審議お願いします。日程が決まり次第、開催通知をお送りします。よろしくをお願いします。

事務局:

それでは、これもちまして平成24年度第4回安城市男女共同参画審議会を終了します。

どうも本日は、ありがとうございました。